

【取組事例】住民総参加による共生・協働の農村(むら)づくり

1 団体名

高山地区公民館（日置市）

2 取組に至った経緯

地区の高齢化，人口減少を背景に，平成20年に旧自治会合同で「第1次高山地区振興計画」を策定し，平成22年3月に各自治会の連携を図るため，「高山地区公民館」が発足しました。平成25年，地区住民全員が会員となる「NPO法人がんばろう高山」を設立し，農業の振興や高齢者の外出支援等を実践しています。

3 取組の内容

(1) 守り継がれている美しい棚田の農業生産活動

- ・ 明治後期に開墾された尾木場集落の棚田は，集落の田守人により，約120年その美しい景観が保全されており，平成25年度からは，高齢化等により，耕作者のいなくなった棚田を「NPO法人がんばろう高山」が作業受託することで，地域ぐるみで営農が継続できる体制を構築しています。

(2) 交流イベントでの集落住民の活躍の場の創出

- ・ 地区全体を元気にしようと始まった「高山ふるさと秋まつり」では，集落住民が指導者となって，歴史や技を伝承しながら都市住民との交流を図っています。

また，地域農産物販売では，高齢農家等の協力による多くの品揃えが人気となっています。

住民総出で取り組む秋まつりは，豊富な知識や技術を持つ高齢者を含めた地域の人材と資源の最大限の活用の場となっています。

(3) 高齢者を地域ぐるみで支えるしくみづくり

ア 買い物等の交通手段を支援

- ・ 「NPO法人がんばろう高山」を中心に，高齢者の買い物や温泉ツアー等の社会参加の支援に向けた区内運送サービスを始めています。
- ・ 車の運転が難しくなった高齢者等の農産物を週2回集荷し，市内の直売所へ出荷しています。

イ 食事や健康づくり支援

- ・ 地元食材を活用した公民館婦人部手作り弁当の高齢独居世帯への配達や高齢者向けの健康教室を開催するなど、福祉の充実に取り組んでいます。

ウ 高齢者の技術を活用した世代間交流の実施

- ・ 高齢者の持っている能力を生かした世代間交流を図るため、「郷土の味」を伝承する「郷土料理教室」を開催しています。

4 メリットや実感している効果

- ・ 棚田を中心とした農業振興や各集落の特徴ある資源を生かした「高山ふるさと秋まつり」の開催等、継続的な都市農村交流を実施し、地域の高齢者の活躍の場や生きがいつくりにつながっています。
- ・ 集落住民全員が参加するNPO法人の設立により、安定した事業運営や高齢者の福祉の充実が図られ、「誰もが住みよい農村づくり」が進んでいます。



棚田での米作り体験を支援



NPO法人による高齢者の外出支援